

## 「平成29年度総会・記念講演会」 「糸魚川市駅北大火に おける災害ボランティ ア活動」

平成29年度

総会・記念講演会

「災害ボランティアぐんま」の平成29年度総会が、6月10日(土)に県庁昭和庁舎で開催され、28年度の事業報告、決算報告、29年度の事業計画、予算案等が承認されました。

続いて開催した記念講演会では、特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワークの野村祐太氏、野村卓也氏をお招きし、「糸魚川市駅北大火における災害ボランティア活動」と題し、ご講演いただきました。

お二人は、平成28年度は、熊本地震のほか、岩手県、北海道で起こった台風10号による水害や、糸魚川市駅北大火の支援活動に携わり、主に、災害ボランティアセンターの立ち上げや運営支援を行いました。また、平時には、地域の方々や小中学生を対象に、研修会や防災講座・防災訓練などを行っています。

今回の講演では、糸魚川市駅北大火の被災状況や災害ボランティア活動についてお話いただきました。

本日は、平成28年12月に起こった糸魚川市駅北大火における、災害ボランティア活動についてお話をさせていただきます。これからお話することは、成功体験ではなく、あくまでも一つの事例としてお聞きください。

出火したのは、12月22日午前10時20分頃で、最大瞬間風速は27.2mと、台風以上の強風が吹いていた日でした。

出火場所は飲食店で、コンロの消し忘れが原因でした。

大火による焼損棟数は147棟、焼失面積は約4万㎡、負傷者は17名、被災者は224名でした。

糸魚川という地域は、風が強く、もともと火災の多い地域でしたが、これほどの大火は初めてのことでした。

大火が発生した22日午後1時に災害対策本部が設置されました。6カ所設置された避難所は、1月5日に閉鎖され、被災者は民間住宅等へ移られました。



野村 卓也氏

### 手探りで始めた支援活動

私たち「にいがた災害ボランティアネットワーク」は、12月23日に現地に入り、上越市社会福祉協議会と糸魚川市社会福祉協議会を訪問しました。そ

こで、ボランティア活動の必要性を調査するため、災害ボランティアセンターを開設することが決まりました。

県域の他の団体と連絡を取り合い、12月25日には、糸魚川市社協に集まって、今後の活動について協議しました。しかし、大火によるボランティアセンターの開設は前例がなく、どのように進めたらよいか、分からない状況でした。

まずは、ボランティアのニーズを調べるため、被災者へチラシを配布しましたが、ボランティアセンターへ、ニーズがなかなか寄せられません。地元の人には話を聞いてみると、困っている人はたくさんいるようでした。地元の方がフェイスブックにより連絡を取り合っていることも分かり、そうした情報を、ボランティアセンターと共有させてもらうことにしました。

ボランティアセンターの運営には、皆さんの協力団体が携わり、にいがた災害ボランティアネットワークは、資機材も提供しましたが、その積み込みは、青年会議所やNPOの方に手伝ってもらいました。

### 協働による「思い出の品プロジェクト」

そんな中、建設業協会から、ボランティアを支援したいという申し出がありました。

建設業協会とボランティアセンター、行政とで連携して、何かできないかと思い、12月29日・30日に、お互いの強みを生かした一つのプロジェクトを実施することにしました。それが、「思い出の品プロジェクト」です。

行政は個人情報を持っており、被災者を把握しています。建設業協会には、重機があり、操作できるオペレーターもいます。そして、ボランティアセンターは、ボランティアと被災者をつなぎ、一人ひとりに寄り添った支援を行うことができます。3者がそれぞれの強みを生かして協働し、このプロジェクトを遂行しました。

プロジェクトを始める際、建設業協会の会長さんから「被災者一人ひとりが納得いくまで、どれだけ時間がかかっても構わない。仕事だと思わず、効率を求めないで作業してほしい」というお話があり、胸が熱くなりました。

被災者を支援する中で、建築関係(ボランティア)が活動してよい建物なのかなど、法律関係(隣の家との境の問題、2階建てのアパートが延焼した際に1階と2階が混ざってしまう問題など)、心のケア関係などの専門職との連携が、特に必要だと感じました。

被災者のニーズがなかなか見えませんでした。町内会長や民生委員、災害の専門家など地域のキーパーソンを被災者との間に入れることで、ニーズを発掘していきました。被災者も、顔見知りの人に状況を聞かれた方が、本音を出せます。

## ボランティアセンターの運営

ボランティアセンターでは、ボランティアの受付後、オリエンテーションで、法律に関する注意(隣の家の敷地に勝手に入らないなど)や被災者から

の依頼事項などを伝えました。

糸魚川地域はヒスイの産地でもあり、それを狙う火事場泥棒のような人もいました。ボランティアが泥棒と間違えられないよう、ボランティアセンターが派遣したボランティアには、緑色のビブスを着用してもらい、警察や警備の方たちにも、その情報を共有しました。



野村 祐太氏

釘の踏み抜きに注意するため、ボランティアの方には、10000円の鉄のインソールを履いてもらいましたが、その費用はのちに地元企業から支援をいただけるようになりました。

ボランティアセンターでのオリエンテーションは、当初、にいがた災害ボランティアネットワークが行っていましたが、徐々に地元の青年に引き継ぎました。地元の方がセンターを運営する体制にいくためです。地元の方がオリエンテーションをすると、聞く方の本気度も違ってきます。

思い出の品探しは、釘に注意してもうらば小さな子どもでもでき、幅広い

年齢の方が参加できる活動でした。

ボランティアの方の服装にも気を配りました。雨合羽を貸したり、火災現場でアスベストを吸い込まないよう、専用のマスクやゴーグルもつけてもらいました。

被災者の方は、着の身着のまま逃げなくて、自分の持ち物を持っていきます。そんな中、この思い出の品探しで、何か一つでも自分の物が見つかる、初めて笑顔になり、前向きな気持ちが出てくるのを見えました。

このプロジェクトでは、99%の確率で、被災者の方が見つけたものが出てきました。ある時、テレビで報道されたとき、たまたま被災者の捜し物が出てきました。テレビを見ていた被災者から「じゃあ私も探してもらおう」と、新たなニーズがありました。報道も、うまく使うとよい効果があると実感しました。

活動の最後には、使用した道具の掃除まで、ボランティアの方にやっていただき、その後、全ての班が集まって、反省会を毎日行いました。

ボランティアの方のための炊き出しとして、地元のグルメが毎日振る舞われました。これは、糸魚川のファンになって帰ってもらいたいという、地元の方の気持ちの表れでした。

地元の中学生たちも、自分たちでできることをやろうと、自主的に掃除をしてくれたり、遠方からのボランティア向けに手作りの地図を作ってくれました。

## 活動をふりかえって

今回の活動でよかったと感じた点は、早期から支援団体と連携・情報共有ができ、結果的に被災者に寄り添った支援を行えたことです。

反省点は、ボランティア活動の際にトラブルがあったことです。例えば、ボランティアの方のたばこ休憩です。今回、失火が原因で被災されたのに、活動の途中で被災者の前でたばこを吸うのは、被災者の方の気持ちを考えるとどうか、と思ってしまうところがありました。

また、悪気はないのですが、ボランティアの方が活動の際に出たゴミを、隣の家の前に置いてしまったこともありました。アパート2階の方の探し物をするとき、1階の方から、私の部屋だから入らないで、と言われたこともありました。こうした問題には、法律の専門家に早い段階から関わってもらうことが重要だと感じました。

ボランティアセンターの運営では、センターにたまに入る方と、継続して入っている方との間で、運営方針に行き違いがありました。内部の指揮系統をしっかりとしておくべきだったと思います。

最後に、被災者のニーズの発掘が遅れたこともありましたが、地元のキーマンに被災者との間に入ってもらうことにより、対応ができました。前例がない取り組みのため、過去にとらわれないボランティアセンターを目指し、被災者に寄り添う支援を心がけ、活動ができたと思います。

## 富岡市総合防災訓練に参加

平成29年5月28日(日)、富岡市立妙義中学校で、富岡市総合防災訓練が実施されました。

会員9名が参加し、富岡市社会福祉協議会の指揮の下、災害ボランティアセンターの立ち上げ、受付、送り出しなど作業の流れを確認しました。



## 平成29年度災害支援セミナー

平成29年6月30日(金)、県社会福祉総合センターで、災害支援セミナーが開催されました。

これは、市町村社会福祉協議会や県・市町村の職員、ボランティアなどを対象に、平時からの様々な団体同士の連携や受援について考えるため、県社会福祉協議会の主催により実施したものです。

当会からも12名参加し、熊本地震の際に中心となって活動された熊本県社会福祉協議会の桂誠一さんから、受援

力の重要性やボランティア活動での心構えを具体的に聴くことができました。



## 群馬県総合防災訓練に参加

平成29年9月2日(土)、渋川市北橋町の渋川市北橋総合グラウンドで県総合防災訓練が行われ、消防や警察、ボランティア団体など、87の機関・団体が、様々な訓練を行いました。参加者数・観覧者数は合わせて約3800人と、多くの方が会場を訪れました。



当会からは、個人会員と団体会員を合わせて15名が参加しました。

渋川市社会福祉協議会の指揮の下、会員は、ボランティアセンター設置訓練と支援物資の輸送・受け入れ訓練を行いました。

前日に雨が降り、当日も天候が心配されましたが、次第に天気も回復し、強い日差しの中、他の参加団体と協力して訓練に取り組むことができました。

体験展示エリアには、災害ボランティアくまのブースを出展し、パネルの展示やチラシの配布によるPRを行いました。



## 平成29年度災害支援セミナーII 平成29年度災害ボランティア センター設置運営研修会

平成29年12月15日(金)、群馬県市町村会館で、災害支援セミナー、及び災害ボランティアセンター設置運営研修会が開催されました。

市町村社会福祉協議会や市町村の職

員、ボランティアなどを対象に、災害支援のあり方や関係機関の連携を模索するため、県社会福祉協議会が実施したものです。

災害ボランティアくまからは12名が参加しました。災害IT支援ネットワークの柴田哲史さんから、災害時には、フェイスブックなどにより積極的に情報を発信することで活動を円滑にできること、深谷市社会福祉協議会の荻原祐輔さんからは、ゲームを通じて災害時の行動を学びました。

## 平成29年度群馬県危機管理 フェアに出展

平成30年1月19日(金)、20日(土)の2日間、群馬県庁1階県民ホールで「身に付けよう、防災の知識!自分を守る、自分の命!」の意識高揚を目的として「群馬県危機管理フェア」が開催され、22の参加団体により展示や実演が行われました。



災害ボランティアぐんまのブースでは会員が写真パネルを用いて、災害時の支援活動などの説明や紹介を行いながら、「災害ボランティアぐんま通信」などのパンフレットや、入会案内書を配布しました。

20日は子ども向けクイズラリーが行われ、全問正解者には豪華賞品が出るとのこと。家族連れの皆さんを対象にクイズの問題の解説、そして一般の皆さんにも啓発資料として、紙マスク、絆創膏、風船なども配布しながら、当会についてひろく広報しました。

(文・会員 高橋弘喜さん)

## 上州雪かき道場に参加

平成30年2月2日(金)に片品村「花の駅・片品 花咲の湯」で、片品村社会福祉協議会などの主催により「上州雪かき道場」が開催されました。

県内で唯一の特別豪雪地帯である片品村では、過疎化・高齢化により除雪の人手が不足し、深刻な状況となっています。新潟から招いた講師から安全な雪かきを学び、雪の降らない地域の方に「雪」に親しんでもらうとともに、片品村との継続的な交流の場ともなっています。

災害ボランティアぐんまの会員も2名が参加し、昨年に続いて参加した会員は、除雪機の操作にも挑戦しました。午後は、班別に分かれ、特に一人暮らし高齢者のお宅を中心に、実際に除雪をしました。いざというときのために、雪の性質を知り、安全に除雪用

具を使って除雪できるよう、技能を身につけることができました。



### 「上州雪かき道場」に参加して

会員 小竹 敦子さん

昨年5月に災害ボランティアぐんまの会員になったものの、被災地に出向いていくことは難しく、何もしいまま半年以上が過ぎてしまいました。

そんな折、雪かき道場参加者募集の連絡をいただき、これなら私にもできそうと思い参加させていただくことになりました。

「上州雪かき道場」は、「越後雪かき道場」という12年活動が続けている新潟の名家から講師をお招きし、片品村・花咲の湯を会場に雪かきのノウハウを参加者に伝授するというものです。今回で3回目の開催ということでしたが、40名の参加者の中には毎回来ている方や大阪、愛知、静岡など遠方から参加されている方もいて、皆さんの関心の高さにビックリしました。

午前中は、講師の方から、楽しく笑いを交えながら、指南書に沿って雪かきのポイントや注意点を教えていた

きました。「ユキカキカルタ」なるものもあり、家庭や職場でも活用できそうです。その後は駐車場の雪を、腕や腰が痛くならないやり方でスコップやスノーダンプで運びました。またグループ対抗雪運びゲームで声を掛け合いながら作業をし、だんだんとグループの方とも打ち解けることができました。

昼食休憩の後はグループに分かれて村の高齢者のお宅を訪問し、実際に雪かき作業を行いました。スコップで雪をかく人、ダンプで運ぶ人、捨てた雪を平らにならす人など、それぞれの役割分担を決め協力しながら雪かきをすると、1時間半ほどで山のように積もっていた雪が跡形もなくなりました。高齢者の方も1人暮らしなので助かると、とても喜んでいただきました。



短い時間でしたが雪かきだけでなく、豪雪地での高齢者の実態やコミュニケーションの大切さ、協力体制の必要性などを学び、大変有意義な経験させていただきました。今回学んだことをこれっきりにせず、こういう機会があればできるだけ参加したいと思えます。災害ボランティアぐんまにも、

今後も活動していけるような組織や、要請があれば応援に行けるようなネットワークができれば、もっと充実していけると思います。貴重な体験をありがとうございました。

### ○個人会費は引き続き無料です

平成29年度から個人会費を無料にしたところですが、30年度も引き続き無料とします。是非活動を継続していただくとともに、ご家族やご友人にも積極的にPRをお願いします。多くの方に会員になっていただけると、いざというときの力になります。個人会員全員のボランティア保険(天災タイプBプラン)に会として加入するので、安心です。

## 編集後記

平成30年1月23日に、草津の本白根山が噴火しました。気象庁もほぼノーマークだった火山で、人身被害を出す突然の噴火でした。火山が多い本県では、いっどこで噴火があってもおかしくないことを思い知らされました。そんな時の備えとして何が必要か、いつも考えておきたいものです。

ある会員さんから、当会のPRにと自分の名刺に会員であることを刷り込むというアイデアを寄せていただきました。こうしたことの積み重ねが、会を知っていただくことにつながります。気づいたらすぐ行動するというのが、救援活動にも大事なのだと感じました。

(事務局)